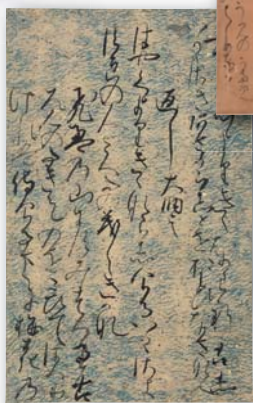
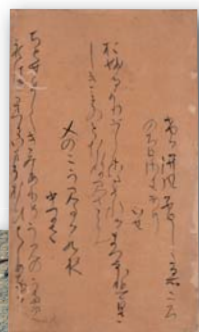
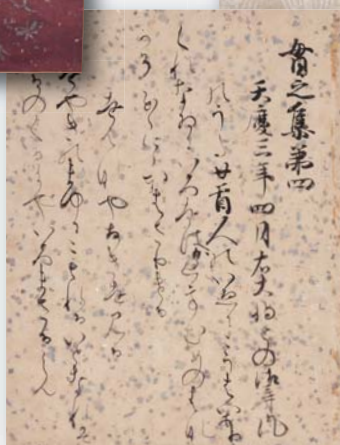
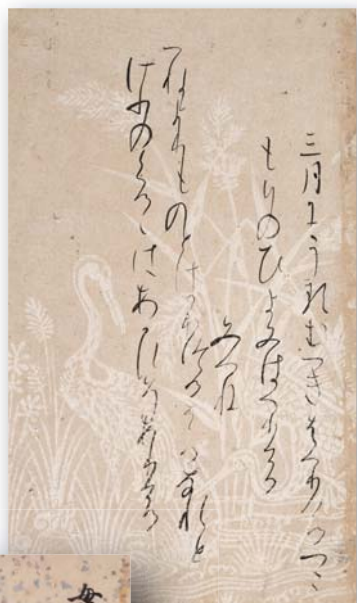


企画展

# 美しき

流麗な墨線が描く表情豊かな美の世界



# The Beauty of

# Kana Letters

二〇一七年  
一月四日(水)から二月五日(日)

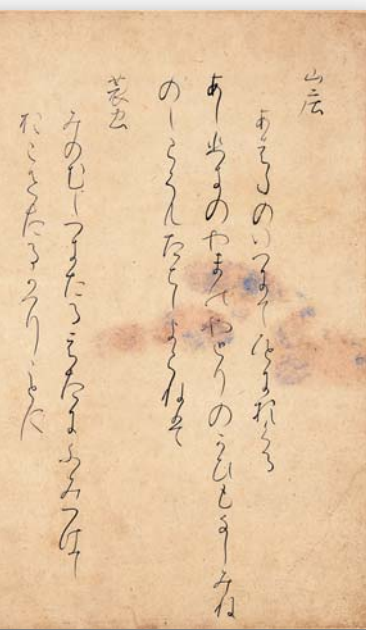
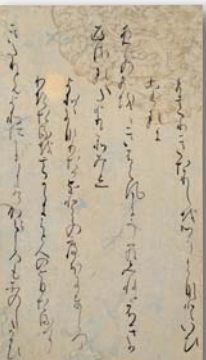
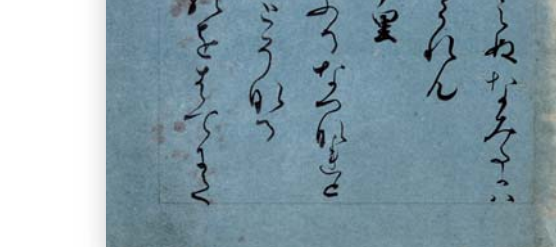
開館時間／午前十時から午後五時(入館は午後四時半まで)  
休館日／月曜日(二月九日(月)は開館翌一月〇日(火)は休館)  
観覧料／一般 一、二〇〇円、高大生 七〇〇円、小中生 五〇〇円  
※二〇名様以上の団体は一般二、〇〇〇円、その他一、〇〇〇円割引  
※土曜日は小中高生入館無料  
主催／徳川美術館、名古屋市蓬左文庫、中日新聞社  
協力／中部日本書道会、名古屋市中交通局

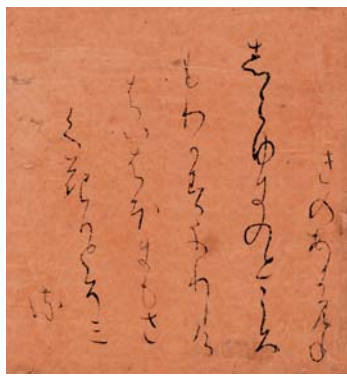
徳川美術館  
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

蓬左文庫  
HOSA LIBRARY

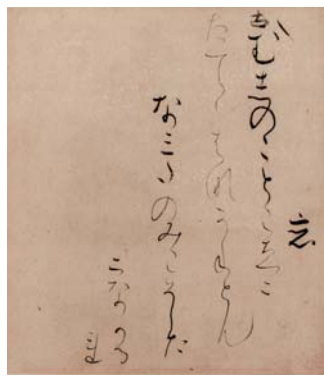
〒461-0023 名古屋市中区徳川町

徳川美術館 電話(052)935-6262 / 蓬左文庫 電話(052)935-2173

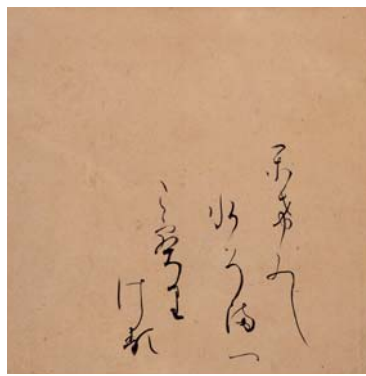




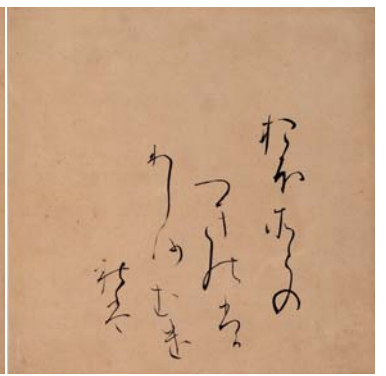
《重文》寸松庵色紙 個人蔵



《重美》升色紙 深養父集 伝藤原行成筆 個人蔵



緑色紙 伝小野道風筆 古筆手鑑『風凰台』所収



# 古筆三色紙を 同時公開!

《継色紙》《升色紙》《寸松庵色紙》

「かなは、漢字を省略化・簡略化して生み出され、展開した我国独自の文字です。『源氏物語』の「梅枝」には、「万事が昔に比べて劣ってきて浅薄になっていく末世ではあるが、かなだけは素晴らしく発展した」と語られているように、十一世紀初頭頃には、各文字を連続させて書く連綿体を用いながら、墨の線状の美しさを充分に發揮させ、流麗で表情豊かな書芸の世界を完成させました。

「関戸本古今和歌集切」「高野切古今和歌集切」など、かなの黄金期を迎えた十一世紀から、「藍紙本万葉集切」「石山切」「大色紙」「今城切古今和歌集」をはじめとする个性的かつ重厚な書風があらわれる十一世紀末期から十二世紀の作品を中心に、十四世紀前半までのかなに表現された、多様なスタイルと典雅な美意識、そしてその変遷をたどります。

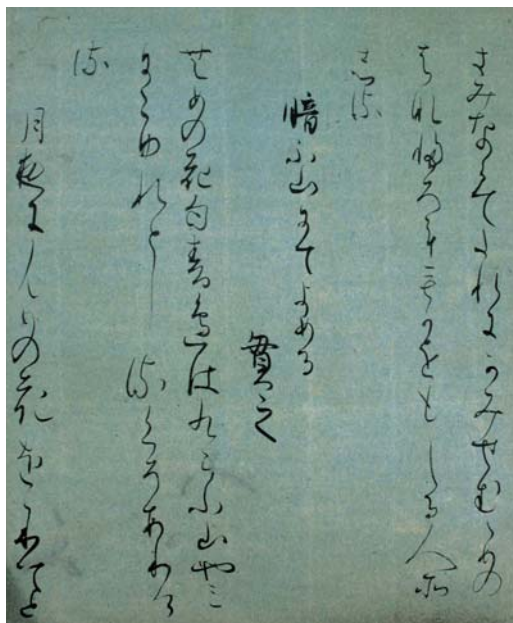
## ■主な展示作品

- 高野切 古今和歌集 伝紀貫之筆 一帖 個人蔵
- 関戸本和漢朗詠集切 源兼行筆 一幅 個人蔵
- 法輪寺切 和漢朗詠集 伝藤原行成筆 一幅 個人蔵
- 《重美》石山切 貫之集下 藤原定信筆 一幅 徳川美術館蔵
- 《重文》三宝絵 伝源後頼筆 一帖 名古屋博物館蔵
- 《重文》広沢切貼込屏風 伏見天皇御集 伏見天皇筆 六曲一双 徳川美術館蔵

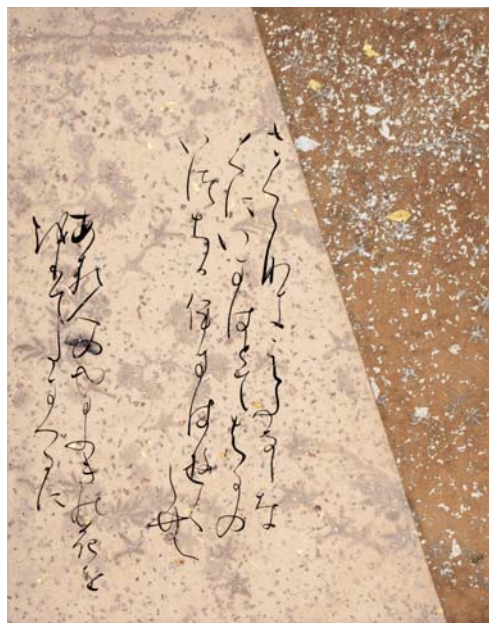
表面作品キャプション 左上から時計まわりに

- 今城切 古今和歌集 藤原教長筆
- 唐紙拾遺抄切 伝藤原公任筆
- 村雲切 貫之集 伝寂然筆
- 香紙切 麗華集 伝藤原公任筆
- 高光集切 伝源後頼筆
- 名家集切 兼輔集 伝紀貫之筆
- 《重文》重之集 伝藤原行成筆
- 《重美》石山切 貫之集下 藤原定信筆
- 和泉式部統集切 伝藤原行成筆
- (いずれも徳川美術館蔵)

※都合により展示作品が変更になる場合があります。



関戸本古今和歌集切 伝藤原行成筆 個人蔵



《重美》石山切 貫之集下 藤原定信筆 個人蔵

## ギャラリートーク

1月 9日(月・祝) 11時～  
1月20日(金) 13時～  
※担当学芸員が展示解説をします。

## 土曜講座

「線状の美-11世紀のかな-」  
学芸部長 四辻秀紀  
1月14日(土) 13時30分～  
徳川美術館 講堂 ※有料

## 徳川園催事

「寒を遊ぶ 徳川園の冬牡丹」  
2017年1月2日(月・祝)～2月19日(日)



## 次回予告

企画展「日本最大の婚礼調度  
-さちぎみ様のお嫁入り-」  
特別展「尾張徳川家の雛まつり」  
2017年2月10日(金)～4月9日(日)



基幹バス「徳川園新出来」下車徒歩3分  
JR中央線「大曾根駅」下車南口より徒歩10分